

年月日

同上(西曆)

記事

セシ火口ニ水ヲ溜溜セシモノタルヲ。而シテ延應元年「是歳白山噴火」
(分類本朝年代記)セシ所ハ實ニ奥ノ院ト御前嶽トノ間一大環缺ヲナス千歳谷源頭
ノ地千歳谷雪下ノ窪所ヲ千歳池ト云フ下界炎熱燬クガニシテ、天文二十三年四月一
如キ日モ池上尙ホ氷雪ヲ以テ掩ハレ道其上ヲ通ス日「嶺上噴火シ石飛テ社堂ヲ壞損シ、手取川灰流テ魚死ス弘治二年ニ至
テ止ム」云々ノ所ハ鍛冶屋地獄ト稱スル地ニシテ奥ノ院ト劍ヶ嶽ノ間ニ
アリテ、其後天正七年八月二十八日「地獄谷ノ竅噴火ス」ト云ヘル所ハ亦
前記セシ地獄ノ附近ニアリシガ如シ。(地學雜誌第十集 鈴木博士ニヨル)
天正七年八月地獄谷ヨリ火石ヲ雨ラシ社壇及神體燒失、明年織田家ヨリ
三社再建。(越前國誌)

第二十七表 赤城山噴火

年月日

同上(西曆)

記事

承和六年(西曆八三九年)六月壬申奉^{ヌキサキ}授ニ上野國無位拔鋒神(甘樂郡一宮村)、赤城
神、伊賀保神、並從五位下。(續日本後紀纂註)
貞觀九年(西曆八六七年)六月二十日丁亥授ニ上野國從五位上赤城神正五
位下。(三代實錄)
貞觀十一年(西曆八七〇年)十二月二十五日戊申授ニ上野國正五位下赤城

建長三年四月十九日

一二五^年一^月一八^日

神、伊賀保神並正五位上。^(同)

貞觀十六年(西曆八七四年)三月十四日癸酉、授上野國赤城神從四位下。

^(同)

元慶四年(西曆八八〇年)五月二十五日戊寅授上野國從四位下赤城神從

四位上。^(同)

四月二十六日丙辰、去十九日上野國赤木嶽燒、爲先例兵革兆之由、令在

應等申之由云々。^(吾妻 繼)

第二十八表 白根山(日光)噴火

年月日

同上(西曆)

記事

承和三年(西曆八三六年)十二月丁巳^{二十}奉授下野國從五位上勳四等二

荒神正五位下。^(續日本後 記纂詁)

承和八年(西曆八四一年)四月乙卯^{十五}奉授下野國正五位下勳四等二荒

神正五位上。^(同)

貞觀元年春正月二十七日甲申、(中略)下野國、授從三位勳四等二荒神正

三位。^(類聚 國史)

貞觀七年(西曆八六六年)十二月二十一日戊辰、授下野國正三位勳四等二

荒神從二位。^(三代 實錄)